

乳幼児期の生育歴、生活態様がその後の保健行動、健康状態に与える影響

(分担研究：学習・遊びと子どもの健康に関する研究)

三瀬順一 五十嵐正紘

要約：乳幼児期にどのような生活態様をとることがその後の保健行動、健康状態に影響するの
かを明らかにするため、自記式調査票を用いて小学校低学年、高学年、中学2年生とその保護者
に対し、岐阜県K村においてパイロットスタディーを施行した。

対象A 児童生徒(1)小学生でも健康不安や神経症傾向をもつ者が少数いる。(2)辛くて
がまんできないようなことや病気の際には家族を頼りにする者が多く、学校や医療機関を解決の
ための資源と考える者は少なかった。(3)小学生でも健康問題への対処行動が自己決定できる
者がいる。(4)歯磨き、予防接種については学校教育の成果か、肯定的積極的であるが、運動
喫煙については意見が分かれた。(5)高齢者を肯定的に受け入れる者が多かった。これは、パ
イロットスタディー施行地で3世代同居の家庭が多く、身近に高齢者がいるためであろう。対し
て障害者についてはとまどいがみられた。(6)児童生徒から得られた情報と保護者から得た
生育歴の情報との関係はサンプル数の少なさと、回答がほぼ同一となる設問も多く、統計学的に
有意な所見は得られなかった。

対象B 保護者(1)紙おむつ、屋外での遊び、集団遊びについて時代と共に変化がみられた。
(2)父親の育児への参加は時代と共に増えている。(3)しつけの方法や考え方については、
一定の傾向をあきらかにすることができなかった。

今後の課題 本調査では小学2年生、5年生、中学2年生を対象にサンプル数を合計900組とし、
実施し、回収、解析中である。あらたに保護者の病気対処行動や保健行動を児童生徒と同じ質問
により、あきらかにすることにした。

見出し語： 保健行動、健康調査、保育、乳幼児、児童

研究目的： こんにち、成人病やス
トレスなどライフスタイルの影響が大きい
健康問題が増大している。乳幼児期の
育てられ方、環境とその後の保健行動、
健康状態の関係を明らかにすることで、
望ましいライフスタイルなどの保健指導
の根拠となる資料を提供する。

また、小児期の保健行動や病気対処行
動と健康信念を示す評価基準や説明モデ
ルを確立する。

研究方法： 1、後ろ向き調査。自記式
(質問紙法)。質問票は、児童・生徒用
と保護者用を作成し、分析した。
2、研究の対象(1)選別様式 パイロ
ットスタディーでは、岐阜県K村の小学
校、中学校各1校において、教育委員会、
学校から担任教師を通じ配布し、無記名
で親子別々に郵送で回収した。(2)対
象の抽出法 村内の全小学生と中学2
年生。(3)対象者数 小学校・中学
2年生の全生徒、計64名とその保護者。
3、測定変数 Outcome Valuesとして、
現在の健康状態(東大式健康調査票ジュ
ニア版 THI-Jを用いる)現在の保健行動、

病気対処行動(保健信念、保健行動、保
健規範に関する質問を自作した)を明ら
かにする。 Predictive Valuesとして、
乳児期(0~1歳)幼児期前期(2~3
歳)幼児期後期(4~5歳)の食事、清
潔、遊び、友達つきあい、社交性、積極
性、しつけ、育児方針、病気の頻度など
について保護者から、回答を求めた。

解析手法 単純集計など。

このパイロットスタディーに用いた質
問紙の例は、平成5年度報告書に示した。
結果 基本事項 回収率100%(回答数
中学生12組、小学生52組、(低学年24組、
高学年28組))

結果

対象 A 児童対象の質問票

(1)小学校低学年でも、健康不安を
訴えるものがある。(表1-1)

中学生では、どちらかといえば健康
でないという回答もあり、健康診断結
果など個別の客観的健康指標に注目し
て日常の保健活動を展開する必要があ
る。健康不安の内容についても個別に
把握するのが望ましい。(表1-2)

A 児童生徒を対象としたアンケートの解析（単純集計）

表1-1

これからさき健康に不安がありますか。

	中2	高学年	低学年
1.ある	1	5	4
2.すこしある	3	14	7
3.あまりない	5	2	3
4.まったくない	5	7	10
計	14	28	24

(2) つらくてとても耐えられないと感じていることのある児童生徒がかなりいる。(表1-3)

家庭や学校が子どもたちがこのようなことを感じていることを教員や保護者は認識しなくてはならないだろう。

表1-3

今、つらくてとても耐えられないと感じていることがありますか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	3		
2.ほとんどない	4		
3.まったくない	6		
計	14	28	24

4～6年生（記述）

かぶと虫がどんどんしんでいくこと
みんなにきらわれている。
ちょっと目がいたくなる
おこられる

(3) 健康や病気についての子どもたちの考え方と行動を知るために以下の質問をした。病気やけがは、予想通り、子どもたちにとっては、あまり関心のある問題ではないようだ。また、成長とともに、無関心になる。これは、病気にかかることが、少なくなることが反映していると考えられる。(表1-4,1-5)

表1-5

健康と病気についての考え方についてあなたの考え方と一番近いものを一つ選んで○をつけてください。

	中2	高学年	低学年
1.病気やけがはめったにしないので、普段は考えない。 そうなった時に考えればよい。	4	1	1
2.たまには病気やけがをすることもあるのだから、 普段の生活が制限されない程度に健康に気をつけて暮らすのがよい。	7	8	13
3.何をするにも健康が大事だから普段の生活に多少 不自由があっても体によくはないことや危険なことは ほしくないほうがよい。	3	18	10
計	14	27	24

表1-2

いま、自分は健康だと思いますか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	8	18	19
2.どちらかといえば健康	3	9	5
3.どちらかといえば 健康でない	3	1	0
4.健康でない	0	0	0
計	14	28	24

中学2年生

1.勉強のこと	2
2.家族のこと	1
3.先生との関係	0
4.友人との関係	0
5.異性の友人のこと	0
6.自分自身の性格のこと	1
7.自分自身のからだのこと	1
8.クラブ活動のこと	2
9.今後の進路のこと	2
10.その他	0人

1～3年生（記述）

さんすうのmondaiがゆびをつかってやりたいです。
べんきょうがおおい
けんどう
() くんにいじめられること(実名記載)

表1-4

健康のために何か気をつけていることがありますか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	3	19	13
2.いいえ	11	8	11
計	14	28	24

(4) 病気対処行動の一端を知るため、一般的な病気である、かぜをひいたときの対処行動を尋ねた。全年齢を通じて、薬に頼る傾向がうかがえるが、食事や清潔といった一般養護の内容は多様である。

医療人類学的考察が必要であろう。さらに、それぞれの、行為、処置法について有用性を副作用とともにに検討する必要があると思われた。(表1-6)

表1-6

かぜをひいた時、どんな手当をしますか。あなたがよくするものいくつか○をつけてください。

	中2	高学年	低学年
1.マスクをする	2	3	4
2.うがいをする	8	16	14
3.手を洗う	3	9	8
4.たまごづけを飲む	0	0	0
5.熱い風呂に入る	0	2	1
6.首にネギを巻く	0	0	1
7.厚着をする	2	8	4

8.おかゆを食べる	6	17	16
9.氷枕をする	3	14	14
10.薬屋の薬を飲む	8	25	22
薬を塗る		4	12
11.病院にかかる	6	18	19
12.お寺や神社で祈る	0	1	1
13.家で神仏に祈る	0	1	3
14.何もしない	2	0	0
総 数	14	28	24

(5) からだの調子が悪いとき、どう対処するかとの問いで病気対処行動の把握を試みた。表1-7は、比較的軽微な体調不良にどう対処するかを尋ねた結果を示す。小学校低学年でも自分で行動を決められることがわかる。これに対し、やや症状が重くなると、薬を飲む、うちの人と相談する、が増える。(表1-8)しかし、慢性化すると、圧倒的に家族に相談する者が多く、学校や養護教諭、医療機関はほとんど利用されない。(表1-9)

表1-9

何日かの間、体の調子が悪くて、自分ではどうしたらよいかわからない場合、誰に相談しますか。

	中2	高学年	低学年
1.家族	12	21	16
2.学校の先生	0	1	0
3.学校の保健室の先生	0	3	0
4.友人(先輩後輩を含む)	1	0	0
5.医療機関(病院)	0	1	1
6.その他	0	0	0
計	13	26	17

●からだの調子が悪い時、最初にどのように行動しますか。次のような場合についてできるだけ自分がこうするだろうと思うものをえらんでください。

表1-7

朝起きると体がだるくて熱っぽく喉が痛い。が、他の症状はない。

	中2	高学年	低学年
1.がまんして学校へ行く	8	9	16
2.すこしうすを見てから登校するかどうかきめる	2	7	3
3.すぐ休む	0	0	2
4.家の人と相談して決める	4	12	2
計	14	28	23

表1-8

土曜日の夜11時ごろ、おなかが痛くなった。がまんできないほどではないが寝られそうもない。

	中2	高学年	低学年
1.できるかぎりがまんする	2	4	6
2.すぐ家にある薬を飲む	6	16	6
3.病院に連れて行ってくれるよう家の人に頼む	0	2	3
4.家の人と相談して言うとおりにする	6	5	7
計	14	27	22

(6) 自分では解決できないような問題は、子どもたちでなくとも、誰しも経験するところであるが、このようなときに頼りになる、人的資源、ネットワークの有無が、問題解決に寄与するといわれる。ところが、表1-10に見るように、頼りになる人がいない者もいる。これは、社会問題化している、いじめ問題や不登校、学校における人権侵害などの問題や若年者の自殺予防に関連した問題である。

パイロットスタディーではサンプルが少なく、生育歴との関係を検討することはできないが、生育歴により、自分では解決できない問題に直面したり、健康がすぐれない時にどう行動するかが決定づけられるという仮説を本調査で検討したい。

(7) 具体的な健康維持行動、健康増進行動の考え方をあきらかにするために、学校保健で熱心に取り組まれてきた、歯磨き、予防接種と、非行との関連で生徒指導などとして指導されてきた、

●困ったことが発生し、自分の力では解決できない場合についておたずねします。

表1-10

こんな時、頼りになる人はいますか。

	中2	高学年	低学年
1.いる	11	26	20
2.いない	3	2	3
計	14	28	24

喫煙、シンナーについて尋ねた。

学校での長年のキャンペーンの効果か、きわめて優等生的な回答が多い、歯磨き、予防接種に対し(表1-11,12)、運動、喫煙、シンナーは回答が分散している。健康という視点での教育が必要な時期にきているのではないだろうか。ことに、成人病との関連で喫煙を始めない教育や、競技に偏らず、運動を習慣化することが今後の課題と思われる。(表1-13、14、15)

表1-11

歯磨きについてのあなたの考え方と一番近いものを一つ選んで○をつけてください。

	中2	高学年	低学年
1.虫歯予防のためにたいていしている	4	23	18
2.さっぱりと気持ちよくなるためにする	4	1	1
3.みんながしている習慣だからする	4	2	3
4.普通の中学生なら歯を磨くものであるから	1	1	2
5.歯磨きはきれいなのであまりしない	0	1	0
計	13	28	24

表1-12

予防接種についてのあなたの考え方と一番近いものを一つ選んで○をつけてください。

	中2	高学年	低学年
1.病気の予防のために受ける	10	25	22
2.みんなが受けるから受ける	3	2	0
3.普通の中学生なら予防接種は受けるものである	1	1	2
計	14	28	24

表1-13

健康のための運動についてあなたの考え方と一番近いものを一つ選んで○をつけてください。

	中2
1.運動は健康増進のためしている	2
2.運動は習慣だからする	5
3.普通の中学生なら運動はするものである	2
4.楽しいから運動する	3
5.ほとんどしない	0
計	14

表1-14

たばこについてあなたの考え方と一番近いものを一つ選んで○をつけてください。

	中2	高学年	低学年
1.たばこは病気の原因なので吸ってはいけない	6	19	16
2.たばこは大人は吸っても良いが中学生はいけない	0	6	4
3.普通の中学生ならたばこはすわないものだ	5	1	0
4.たばこはきれいなので吸いたくない	3	1	4
計	14	28	24

表1-15

シンナー（シンナー遊び）についてあなたの考え方と一番近いものを一つ選んで○をつけてください。

	中2	高学年	低学年
1.シンナーはからだに良くないので吸ってはいけない	11	14	15
2.シンナーは大人は吸っても良いが中学生はいけない	0	1	0
3.普通の中学生ならシンナーはすわないものだ	1	8	4
4.シンナーはきれいなので吸いたくない	2	1	2
計	14	28	24

（8）保健行動に関連して、家族の健康にどのように子どもが関わっているかを知るため、表1-16のような質問をしたが、特に注目すべき結果は得られなかった。

ただし、前述の、家族を相談相手や頼りにする傾向や後述の、福祉についての考え方を聞いた答えと併せて見ると、表1-16ではいが多いのは、この地域では家族を大事にし、家族による扶助、福祉が中心であることを示しているともいえる。

やはり、老人や障害者とともに暮らす経験が、家族の健康についての考え方の形成に影響していることも推察される。本調査ではこの仮説も検討したい。

表1-16

家族の健康のためになにかしていることがありますか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	13		
2.いいえ	1		
計	14		

かぞくの人のけんこうのためになにかしてあげていることがあればつぎのしかくにかいてください。（1－3年生）

ばいきんをうつさない	1
かたたたきをする	4
手つだいをしたい。	1

表1-17

お年寄りが家族や身近にいますか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	13	25	20
2.いいえ	1	3	2
計	14	28	22

表1-18

からだの不自由なお年よりが家で身のまわりの世話をされながら暮らすことについてどう思いますか。

	中2	高学年	低学年
1.なるべく家族が助け合って家で暮らすのがよい	13	24	18
2.病院で看護婦さんやお医者さんの世話を受けながら暮らすのがよい	1	1	2
3.老人ホームで暮らすのがよい	0	1	1
4.お年寄りが自分でどこで暮らすかを決め、それを国や役場が税金を使って助けるのがよい	0	0	0
5.お年寄りは家族を頼らず、自分で世話をしてくれる人を頼んで暮らすのがよい	0	0	1
計	14	26	22

（9）からだの不自由な人々や知恵遅れの人々に対する考え方は、年齢で差がなく、老人についての考え方と比較してみると、よそよそしさや冷たい印象を与える。また、困惑した態度も見られる。

表1-19

体の不自由な人が身近にいますか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	2	8	4
2.いいえ	12	20	17
計	14	28	21

なお、小学校低学年では、自由記入欄に「知恵おくれって何ですか」という記述が数軒あった。（表1-19、20、21、22）

表1-20

駅でからだの不自由な人がキップを買うことができずに困っているところへあなたがひとりで通りかかった場合、どうしますか。ふだんのあなたならこうするだろうと思うもの一つに○をつけてください。

	中2	高学年	低学年
1.無視して通り過ぎる	3	2	1
2.何かお手伝いしましょうかと聞く	0	11	4
3.手伝ってほしいといわれる前に手助けする	0	3	11
4.手伝ってあげたいがどうしたらいいかわからないのでそのまま通り過ぎる	9	9	3
5.駅員に困っている人がいるようだという	1	3	2
6.その他			
計	14	28	21

表1-21

知恵遅れの人が身近にいますか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	4	3	2
2.いいえ	10	25	20
計	14	28	22

表1-22

友達と遠くへ出かけたとき、乗り物の中で知恵遅れの中学生と同じ席になり、一緒に遊んだり話をしたりしたいと言われた場合、どうしますか。普段のあなたならこうするだろうと思うもの一つに○をつけてください。

	中2	高学年	低学年
1.すぐと一緒に遊んだり話したりする	0	14	9
2.適当に相手をする	8	8	2
3.無視して他の席に移動する	1	1	2
4.どうしたらよいかわからないので他の席に移動する	5	5	10
5.その他	0	0	0
計	14	28	23

表1-23

からだの不自由な人やお年寄りのためにいろいろな福祉制度や機関がありますが、こういった福祉制度はこれからどうしたらいいと思いますか。

	中2	高学年	低学年
1.みんなから集めた税金を中心に運営する	8	10	8
2.からだの不自由な人やお年寄りとその家族から集めたお金を中心に運営する	0	7	3
3.福祉に関心のある人の寄付金を中心に運営する	4	3	1
4.税金と寄付金を中心に運営する	1	4	2
5.税金とからだの不自由な人やお年寄りとその家族から集めたお金を中心に運営する	0	3	8
6.寄付金とからだの不自由な人やお年寄りとその家族から集めたお金を中心に運営する	0	0	0
計	13	27	22

(10)THI-J(東大式健康調査票ジュニア版)を用いて、中学生と小学校高学年の児童の現在の神経症的傾向と、抑うつ、不安について検討した。THIは、Cornell Medical Indexを基に、鈴木らが開発したもので、産業衛生の分野を中心に利用されている、自記式健康調査票である。7) 8) これを竹内らが思春期精神保健に利用すべく開発したのが、THI-J で、成人版との比較検討もされている。8) 9)

THI-Jでは、多愁訴、外向性、神経質、逸脱性、直情性、虚構性、抑うつ性、精神不安の8つの面からの点数の分析に加え、心理学の専門家による面接により、次の6つのタイプを類型化して、より詳細な面接のためのスクリーニングに利用できる。ただし、このタイプの類型化により、精神の健康状態が一元的に理解できるものではない。

表1-24に8つの指標別の中学2年生、13人の点数を示す。表1-25は、これを有効回答設問数に対する割合(%)で表したもので、便宜上51-70%、71-85%、86-100%を示した指標には網目を付けた。またタイプ別の判定に関係した項目・指標は線で囲んだ。

表1-25では、ID番号4,8,9の3人が問題と思われる。実際、質問54の「死にたくなることがありますか」との設問に、この3人とも「はい」と答えている。このように自記式で匿名性の高い調査とはいえ13名

中に3名の問題を持つ可能性のある生徒が含まれるのは、予想以上の高率である。中学校における日常の精神衛生活動が期待される。

表1-26,1-27は小学校高学年の16人について同様に集計したものである。ID番号11の生徒に中学生について指摘したのと同じ問題が指摘できる。

タイプの概要

- 1 全体として高値、虚構性と外向性は低値～中等度。優等生と問題児を含む
- 2 直情性、神経質、外向性高値
きまったパターンはない。
- 3 外向性、虚構性が低値であとは高値
いじめられ、ひきこもり、抑うつの態度、不潔恐怖を含む
- 4 全体に低値
友人関係に問題のあるケースを含む
- 5 外向性と虚構性が高値、他は中等度～低値
成績優秀で生徒会役員などを含む
- 6 共通するパターンが見いだせない

表1-24 中学2年生 THI-J (東大式健康調査票ジュニア版) 項目別得点

ID	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	項目数
多愁訴	23	23	27	40	23	25	24	40	39	22	29	18	17	15
外向性	25	30	36	34	29	23	28	35	33	30	34	33	32	14
神経質	25	30	33	32	32	20	23	31	30	19	27	19	20	13
逸脱性	14	20	17	24	19	14	22	27	26	13	20	17	15	10
直情性	25	32	30	37	32	33	31	35	36	24	34	24	27	14
虚構性	19	15	25	19	25	18	22	21	27	20	23	16	22	12
抑うつ性	15	19	25	26	20	14	14	31	31	13	20	12	13	12
精神不安	13	18	20	29	27	17	15	34	33	14	23	13	19	13

表1-25 中学2年生 TH I - J (東大式健康調査票ジュニア版) 項目別得点割合 (%)

ID	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
多愁訴	51.1	51.1	60	88.9	51.1	55.6	53.3	88.9	86.7	48.9	64.4	40	37.8
外向性	59.5	71.4	85.7	81	69	54.8	66.7	83.3	78.6	71.4	81	78.6	76.2
神経質	64.1	76.9	84.6	82.1	82.1	51.3	59	79.5	76.9	48.7	69.2	48.7	51.3
逸脱性	46.7	66.7	56.7	80	63.3	46.7	73.3	90	86.7	43.3	66.7	56.7	50
直情性	59.5	76.2	71.4	88.1	76.2	78.6	73.8	83.3	85.7	57.1	81	57.1	64.3
虚構性	52.8	41.7	69.4	52.8	69.4	50	61.1	58.3	75	55.6	63.9	44.4	61.1
抑うつ性	41.7	52.8	69.4	72.2	55.6	38.9	38.9	86.1	86.1	36.1	55.6	33.3	36.1
精神不安	33.3	46.2	51.3	74.4	69.2	43.6	38.5	87.2	84.6	35.9	59	33.3	48.7
タイプ	6	2	2	1	1	6	6	1	1	5	6	6	6

51-70% 71-85% 86-100%

表1-26 小学校4-6年生 TH I - J (東大式健康調査票ジュニア版) 項目別得点

ID	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	項目数
多愁訴	22	21	24	32	31	30	19	25	29	23	41	26	33	19	21	29	15
外向性	33	40	33	25	32	35	35	34	39	31	35	38	37	31	31	34	14
神経質	21	25	25	29	25	30	13	23	20	19	36	35	35	19	15	24	13
逸脱性	15	15	16	17	23	18	12	14	15	14	16	12	17	16	13	20	10
直情性	28	27	28	34	27	29	23	24	26	24	33	31	37	27	25	30	14
虚構性	27	27	19	15	27	21	25	21	28	20	30	26	16	24	19	20	12
抑うつ性	15	15	14	23	18	18	12	16	14	14	25	19	27	17	15	16	12
精神不安	21	20	16	22	26	20	13	18	19	22	38	21	20	20	17	23	13

表1-27 小学校4-6年生 TH I - J (東大式健康調査票ジュニア版) 項目別得点割合 (%)

ID	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
多愁訴	48.9	46.7	53.3	71.1	68.9	66.7	42.2	55.6	64.4	51.1	91.1	57.8	73.3	42.2	46.7	64.4
外向性	78.6	95.2	78.6	59.5	76.2	83.3	83.3	81	92.9	73.8	83.3	90.5	88.1	73.8	73.8	81
神経質	53.8	64.1	64.1	74.4	64.1	76.9	33.3	59	51.3	48.7	92.3	89.7	89.7	48.7	38.5	61.5
逸脱性	37.5	37.5	40	42.5	57.5	45	30	35	37.5	35	40	30	42.5	40	32.5	50
直情性	66.7	64.3	66.7	81	64.3	69	54.8	57.1	61.9	57.1	78.6	73.8	88.1	64.3	59.5	71.4
虚構性	75	75	52.8	41.7	75	58.3	69.4	58.3	77.8	55.6	83.3	72.2	44.4	66.7	52.8	55.6
抑うつ性	41.7	41.7	38.9	63.9	50	50	33.3	44.4	38.9	38.9	69.4	52.8	75	47.2	41.7	44.4
精神不安	53.8	51.3	41	56.4	66.7	51.3	33.3	46.2	48.7	56.4	97.4	55.8	51.3	51.3	43.6	59
タイプ	6	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	2	2	6	6	6

51-70% 71-85% 86-100%

B 保護者を対象としたアンケートの解析（単純集計）

(1) 殆どの子どもは妊娠時に歓迎されている。歓迎されなかった子どもの生育歴と現在の状況をこの回答をした保護者の子どものアンケートで見

表2-1
妊娠がわかったときどう感じましたか。

	中2	高学年	低学年
1.期待していたのでうれしかった	10	19	15
2.予想外の妊娠だったがうれしかった	1	6	6
3.予想外の妊娠で当惑し中絶も考えた	1	1	1
4.よく覚えていない	2	0	3
計	14	26	25

(2) 両親は総じて仲がよい。(表2-2)

表2-2

生まれた時、両親の仲はどうでしたか。

	中2	高学年	低学年
1.なかよし	14	26	24
2.不仲	0	0	0
3.別居状態	0	0	0
4.係争関係	0	0	0
計	14	26	24

(3) 半数以上の母親が働いていた。(表2-3)

表2-3

妊娠前にお母さんは仕事を持っていましたか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	10	13	12
2.いいえ	4	14	13
計	14	27	25

(4) 超低出生体重児は1045gの一人のみ(表2-4) 新生児期に入院経験のある子どもは少ない。(表2-5) この調査の対象となった児童生徒(回答者)はほぼ健康な集団といえる。

表2-4

生まれたときの体重は何gでしたか。

	中2	高学年	低学年
平均(g)	3092	3111.6	2996.6
SD	320	356.27	489.18
範囲 最小(g)	2560	2310	1045
範囲 最大(g)	3545	3800	3670

表2-5

生まれてから1カ月以内に病気で入院したことがありますか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	0	1	2
2.いいえ	14	26	23
計	14	27	25

たが、特に問題がなかった。サンプル数が大きくなると一定の傾向が見いだせる可能性がある。(表2-1)

(5) 乳児期の栄養は母乳、混合、ミルクに分かれる。現在、中学2年生の生徒の方が小学校低学年の児童より母乳の割合が多い。これは、時代ともに母乳が見直されている傾向を表しているのかも知れない。(表2-6)

表2-6

乳児期の栄養は。

	中2	高学年	低学年
1.母乳	3	8	13
2.混合	7	17	10
3.ミルク	4	3	2
計	14	28	25

(6) 離乳食は自家製が主。(表2-7)

表2-7

離乳食は自分で作りましたか。

	中2	高学年	低学年
1.ほとんど自家製	12	20	19
2.半々	2	7	6
3.ほとんど既成のもの	0	0	0
計	14	27	25

(7) おむつは布製が多いが、時代とともに紙おむつが増加する。(表2-8)

表2-8

おむつは何を使いましたか。

	中2	高学年	低学年
1.紙おむつ	0	0	3
2.ほぼ半々	2	5	8
3.布おむつ	12	22	13
計	14	27	24

(8) トイレトレーニングを特に意識的にしなかった家庭も多い。(表2-9)

表2-9

トイレのしつけはどうしましたか。

	中2	高学年	低学年
1.早くから厳しくした	0	3	0
2.段階的に進めた	11	17	17
3.とくにしなかった	3	8	8
計	14	27	25

(9)おんぶやだっこのしかたは多様である。(表2-10)

表2-10

乳児期にどのように抱っこやおんぶをしていましたか。

	中2	高学年	低学年
1.抱っこが主	1	10	8
2.顔が親と同じ方向のおんぶ	11	13	14
3.顔が親と反対方向に向いたおんぶ	1	4	3
4.その他	0	0	0
計	13	27	25

(10)子どもの探索行動については、理解を示し、観察している親が多い。(表2-11)

表2-11

お子さんが家じゅうをちらかして何かを探するような行動をしているのを見つけた時、どうしましたか。

	中2	高学年	低学年
1.ほめた	0	2	0
2.叱った	1	4	8
3.納得するまで観察した	12	21	15
計	14	28	24

(11)父親の育児への参加はおむつ交換/入浴/遊びのいずれでも時代とともに増加している。(表2-12,13)しかし、休日に一緒に遊ぶなどの交流は少ない。(表2-14)

表2-12

お父さんはこの時期におむつを換えましたか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	1	0	3
2.ときどきした	4	10	8
3.換えなかった	9	17	13
計	14	27	24

表2-13

お父さんはこの時期にお子さんを風呂にいれましたか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	10	17	22
2.ときどきした	3	8	2
3.入れなかった	1	3	1
計	14	28	25

表2-14

お父さんはこの時期にお子さんと休日に遊びましたか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	7	12	15
2.ときどきした	4	13	8
3.遊ばなかった	3	3	2
計	14	28	25

(13)ほとんど全員同じ村に住んでいにも関わらず、自然/社会環境の評価はかなり多様。(表2-15,16)

表2-15

この時期に住んでいたところはどんなところですか。

	中2	高学年	低学年
1.住宅地	2	5	4
2.商業地	0	0	0
3.農山漁村	11	20	16
4.その他	4	1	4
計	14	26	24

表2-16

どんな自然環境でしたか。

	中2	高学年	低学年
1.気候温暖	4	12	9
2.豪雪の寒冷地	3	7	6
3.雪の少ない寒冷地	4	5	2
4.その他	3	3	6
計	14	27	23

(14)ほとんどが庭付き一戸建ての住宅に住んでいた。(表2-17)

表2-17

どんな家屋にすんでいましたか。

	中2	高学年	低学年
1.庭付き一戸建て	13	24	22
2.集合住宅	1	2	0
3.間借り	0	1	2
計	14	27	24

(15)3世代同居家族が非常に多い。(表1-17、表2-18)

表2-18

家族構成について伺います。お子さんから見て次のそれぞれにあたる人がいたかどうか、お答えください。

	中2	高学年	低学年
祖父	7	18	17
祖母	11	23	22
父	14	27	23
母	14	27	23
兄	5	10	6
姉	7	11	10
弟	2	1	7
妹	4	4	4
その他	2	5	9
計	14	27	23

表1-17 (再掲)

お年寄りが家族や身近にいますか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	13	25	20
2.いいえ	1	3	2
計	14	28	22

(16)妊娠前・乳児期を通じて半数以上の母親が働いていた。(表2-3、2-19、2-20)

表2-19

お母さんは仕事を持っていましたか。

2-3歳	中2	高学年	低学年
1.はい	8	14	7
2.いいえ	6	14	18
計	14	28	25

表2-20

4-5歳	中2	高学年	低学年
1.はい	9	19	19
2.いいえ	3	6	6
計	14	28	25

(17)子どもが泣いた時、叱る時などの対処法に一定の傾向は見出せないが、泣いたときにほおっておく保護者の割合は2-3歳より、4-5歳で多い。また、なぜ、

どうして。としつこく聞かれた時「できるだけ一生懸命答える」親が8割に上る。(表20-21~24)

表2-21

買ってほしいものがあり、店で激しくおねだりされたときはどうしましたか。

	中2	高学年	低学年
1.無視してほかのことにした	0	1	2
2.ほかの交換条件で納得させた	3	9	4
3.なるべく要求に沿うよう買い与えた	0	1	1
4.ことばで言い聞かせてあきらめさせた	8	15	16
計	11	26	23

表2-22

お子さんが泣いたときどのようにしていましたか。

2-3歳	中2	高学年	低学年
1.泣き止むまでほおっておいた	4	11	11
2.すぐだっこした	8	15	13
計	14	26	24

4-5歳	中2	高学年	低学年
1.泣き止むまでほおっておいた	9	19	19
2.すぐだっこした	3	6	6
計	12	25	25

表2-23

お子さんを叱るときどんな叱り方でしたか。

	中2	高学年	低学年
1.ことばで言ってもわからないのでよく叩いて叱った	0	1	4
2.危険なことなど特定のことが原因の時に限って叩いて叱った	8	8	6
3.家から閉め出したり押し入れにいれたりする罰を与えた	0	1	1
4.いつもことばで言い聞かせた	5	16	13
計	13	26	24

表2-24

子どもになぜ、どうしてとしつこく聞かれたらどうしていましたか。

	中2	高学年	低学年
1.やかましい、といてとりあわなかった	1	0	0
2.他の人に聞くように言った	1	1	2
3.できるだけ一生懸命答えるようにした	12	26	22
計	14	27	24

(18)夜間の外出、子連れの旅行もかなりしている。(表2-25、26)

表2-25

夜、お子さんと外出することがありましたか。

2-3歳	中2	高学年	低学年
1.はい	4	10	6
2.いいえ	10	18	8
計	14	28	25

4-5歳	中2	高学年	低学年
1.はい	4	9	7
2.いいえ	10	18	18
計	14	27	25

表2-26

お子さんと泊まりがけで旅行することがありましたか。

2-3歳	中2	高学年	低学年
1.はい	6	14	10
2.いいえ	8	13	15
計	14	27	25

4-5歳	中2	高学年	低学年
1.はい	7	14	12
2.いいえ	7	13	13
計	14	27	25

(19)幼稚園等には61-86%の子どもが通ったが、習い事や、早期英才教育を受けた子どもはほとんどいない。
(表2-27~29)

表2-27

この期間に保育園(所)や幼稚園には

2-3歳	中2	高学年	低学年
1.通った	12	17	17
2.通わなかった	2	11	8
計	14	28	25

4-5歳	中2	高学年	低学年
1.通った	14	26	24
2.通わなかった	0	0	0
計	14	26	24

表2-28

この期間に習い事には

2-3歳	中2	高学年	低学年
1.通った	0	1	0
2.通わなかった	14	27	25
計	14	28	25

4-5歳	中2	高学年	低学年
1.通った	1	3	5
2.通わなかった	13	24	20
計	14	27	25

表2-29

いわゆる「早期英才教育」をしましたか。

2-3歳	中2	高学年	低学年
1.はい	0	0	0
2.いいえ	14	28	25
計	14	28	25

4-5歳	中2	高学年	低学年
1.はい	0	0	0
2.いいえ	14	27	24
計	14	27	24

(20)集団遊びをしない子どもも30%以上みられるが、幼児期後半にはできるようになる。(表2-30、31)

表2-30

お子さんは集団であそんでいましたか。

2-3歳	中2	高学年	低学年
1.はい	10	15	12
2.いいえ	4	13	11
計	14	28	23

4-5歳	中2	高学年	低学年
1.はい	12	21	20
2.いいえ	2	6	4
計	14	27	24

表2-31

友達とはどういう遊び方をしましたか。

2-3歳	中2	高学年	低学年
1.よく家に複数で遊びに来た	8	1	4
2.特定の友達が一人で来た	1	5	2
3.友達の家に遊びに行くことが多かった	1	0	3
4.さかんに行き来していた	2	11	9
5.ほとんどあそばなかった	1	7	6
計	13	24	24

4-5歳	中2	高学年	低学年
1.よく家に複数で遊びに来た	4	1	3
2.特定の友達が一人で来た	1	4	3
3.友達の家に遊びに行くことが多かった	2	2	2
4.さかんに行き来していた	5	15	14
5.ほとんどあそばなかった	0	2	2
計	12	24	24

(21)幼児期を通じ、概ね、健康に過ごす子どもが多かった。

(表2-32~35)

表2-32

2~3歳のお子さんの健康状態はどうでしたか。

	中2	高学年	低学年
1.慢性の病気で定期的を受診していた	1	0	2
2.慢性の病気で定期的を受診しており日常生活に支障があった	0	0	0
3.普段は健康だったが、よく熱をだすなどして、医療機関に年6回以上かかった	9	9	11
4.健康で医療機関にかかったのは年5回以下だった	4	18	11
計	14	27	24

表2-33

4~5歳のお子さんの健康状態はどうでしたか。

	中2	高学年	低学年
1.慢性の病気で定期的を受診していた	1	0	1
2.慢性の病気で定期的を受診しており日常生活に支障があった	0	0	0
3.普段は健康だったが、よく熱をだすなどして、医療機関に年6回以上かかった	5	8	10
4.健康で医療機関にかかったのは年5回以下だった	8	19	12
計	14	27	25

表2-34

この期間に入院しましたか。

2-3歳	中2	高学年	低学年
1.はい	1	3	3
2.いいえ	13	25	21
計	14	28	24

4-5歳	中2	高学年	低学年
1.はい	1	1	2
2.いいえ	13	27	23
計	14	28	25

表2-35

この期間には食欲はありましたか。

2-3歳	中2	高学年	低学年
1.はい	10	22	17
2.いいえ	4	6	8
計	14	28	25

4-5歳	中2	高学年	低学年
1.はい	11	22	18
2.いいえ	3	6	6
計	14	28	24

(22)幼児期前半ですでに食べ物の好き嫌いが出てきている。幼児期後半では半数に上る。(表2-36)

表2-36

この期間には食べ物の好き嫌いがありましたか。

2-3歳	中2	高学年	低学年
1.はい	7	11	11
2.いいえ	7	17	14
計	14	28	25

4-5歳	中2	高学年	低学年
1.はい	8	13	12
2.いいえ	6	15	12
計	14	28	24

(23)添い寝する母親が時代とともに増加している。

(幼児期前半後半共通 表2-37)

表2-37

この期間は誰とねていましたか。

2-3歳	中2	高学年	低学年
1.母親	7	20	18
2.父親	3	1	3
3.祖父母	1	1	1
4.一人で	3	4	2
計	14	26	24

4-5歳	中2	高学年	低学年
1.母親	4	16	11
2.父親	3	1	4
3.祖父母	2	3	0
4.一人で	4	6	5
計	14	26	20

(1.から3.と答えたかたに) 同じ寝具でしたか。

	中2	高学年	低学年
1.はい	8	20	20
2.いいえ	3	2	1
計	11	22	21

	中2	高学年	低学年
1.はい	6	21	14
2.いいえ	3	2	1
計	9	23	15

考察

今回のパイロットスタディーでは、サンプル数は少なかったものの、記述研究としては興味ある結果を得ることができた。

しかし、児童、生徒が年長になるほど、乳幼児期の保護者の記憶には曖昧さが、まし、現実より理想的な姿を実態として回答する傾向があることが容易に想像される。これは、後ろ向き自記式調査の限界と考えられる。

生育歴によって現在の健康状態や、保健行動がどう左右されるかを考察するには、両者の関係を解析する必要があるが、今回のパイロットスタディーでは、サンプル数が少なく、統計学的に多変量解析などではできなかった。本調査では、十分なサンプル数が用意できるものと思われる。

また、「子どもの保健意識、保健行動は保護者の現在の保健意識、保健行動と類似する」との仮説を検討すべきだと考え、本調査では、保護者自身の保健行動についての設問を設けた。

謝辞

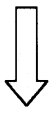
我々の調査に快くご協力いただきました、岐阜県揖斐郡春日村教育委員会、春日村中学校、春日村小学校の教職員のみなさま、保護者のみなさま、児童生徒のみなさまに厚く御礼申し上げます。

また、本調査にあたっては、北海道厚岸町教育委員会、真竜中学校、真竜小学校、岩手県藤沢町教育委員会、藤沢中学校、黄海中学校、藤沢小学校、新沼小学校、徳田小学校、保呂羽小学校、黄海小学校、大籠小

学校、茨城県総和町教育委員会、総和北中学校、下大野小学校の教職員、児童生徒、保護者のみなさまにご協力をいただいております。併せて御礼申し上げます。

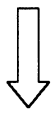
参考文献

- 1 宗像恒次ら.都市住民のストレス源と精神健康度.精神衛生研究 32,47-65.1986
- 2 Harris D.M.et.al.Health-protective behavior:an exploratory study J Health Social Behavior19,157-165.1978
- 3 Kasl S.V.et.al. Helth behavior illness behavior and sick-role behavior. Arch Environ Health I 12,246-266.1966
- 4 Kasl S.V.et.al. Helth behavior illness behavior and sick-role behavior. Arch Environ Health II 12,534-541.1966
- 5 Suchman E.A. Social pattern of illness and medical care.J Health Human Behavior 16,2-16 .1965
- 6 Persons T. The sick role and role of the physician re-considered.Milbank memorial fund quarterly 53,257-278. 1975
- 7 鈴木庄亮ら.新質問紙健康調査票THIの紹介.医学のあゆみ 99,217-225.1976
- 8 浅野弘明ら.東大式健康調査票(THI)成人版とジュニア版の調査結果の比較.日本衛生学雑誌 47,528. 1992
- 9 竹内一夫ら.思春期精神保健のための新しい質問票の作成について.北関東医学39,35-52.1989



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:乳幼児期にどのような生活態様をとることがその後の保健行動、健康状態に影響するのかを明らかにするため、自記式調査票を用いて小学校低学年、高学年、中学2年生とその保護者に対し、岐阜県K村においてパイロットスタディーを施行した。

対象A 児童生徒(1)小学生でも健康不安や神経症傾向をもつ者が少数いる。(2)辛くてがまんできないようなことや病気の際には家族を頼りにする者が多く、学校や医療機関を解決のための資源と考える者は少なかった。(3)小学生でも健康問題への対処行動が自己決定できる者がいる。(4)歯磨き、予防接種については学校教育の成果が、肯定的積極的であるが、運動、喫煙については意見が分かれた。(5)高齢者を肯定的に受け入れる者が多かった。これは、パイロットスタディー施行地で3世代同居の家庭が多く、身近に高齢者がいるためであろう。対して障害者についてはとまどいがみられた。(6)児童生後から得られた情報と保護者から得た生育歴の情報との関係はサンプル数の少なさと、回答がほぼ同一となる設問も多く、統計学的に有意な所見は得られなかった。

対象B 保護者(1)紙おむつ、屋外での遊び、集団遊びについて時代と共に変化がみられた。(2)父親の育児への参加は時代と共に増えている。(3)しつけの方法や考え方については、一定の傾向をあきらかにすることかできなかった。

今後の課題本調査では小学2年生、5年生、中学2年生を対象にサンプル数を合計900組とし、実施し、回収、解析中である。あらたに保護者の病気対処行動や保健行動を児童生徒と同じ質問により、あきらかにすることにした。